

## 活動状況等報告③ 地域振興



斐伊川水系 水鳥プロジェクト

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

# 1. 地域振興ワーキング報告

観光振興

地域ブランド確立

地方創生

## (1) ワーキング開催概要

2023年11月2日に、大型水鳥類を活用した観光振興および、斐伊川流域の特色・魅力の認知度向上に向けた検討について意見交換を行った。

日時	2023年11月2日（木）14:00～16:00		
場所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室（オンライン併用）		
参加メンバー	エピオネイチャーガイドオフィス 代表	池田 友紀	
	中海・宍道湖・大山圏域観光局 代表理事	井田 克己	
	道の駅 湯の川 駅長	金築 豊	
	（一社）出雲観光協会 事務局次長	斉藤 謙一	
	（一社）出雲観光協会 会長 神門通り甞りの会 代表	田邊 達也	
	（株）山陰中央新報社 編集局政経部 デスク	舟越 幹洋	
その他	協議会参加自治体の関係部署		
	国土交通省 出雲河川事務所 (公財)日本生態系協会		
主な議題	①大型水鳥類を活用した観光振興について ②大型水鳥類から知る斐伊川流域の特色・魅力の認知度向上に向けた検討		

## (2) 主な議事内容

### ◆大型水鳥類を活用した観光振興について

- ・斐伊川河口部および中海エリアでの2022年度の取組実施報告と、2023年度実施内容の提案を行った。
- ・斐伊川河口部ツアーの過年度までの集客状況を整理し、意見交換を行った。

### ◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・点でやっている活動を1つのまとまりとして発信していった方がよい。
- ・デジタル広報においては、日常的な情報のアップが効果的である。

### ◆大型水鳥類から知る斐伊川流域の特色・魅力の認知度向上に向けた検討

- ・2022年度ワーキングで出された課題点を踏まえ、認知度向上に向けた取組案を提示し、方向性や実施可能性等について意見交換を行った。  
(提案内容) 生きものカードの活用・缶バッジ配布時の情報提供  
パネルの活用・簡易動画制作・PR強化期間の設定  
事業者への働きかけ

### ◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・生きものカードの配布は、協力可能である。
- ・既にこの地を訪れている人に対してアピールができるとうよい。人が集まるところでカードを配布して、さらに別の場所に誘導できれば良いのではないかと。
- ・新たにカードを作成するのは時間もかかるため、既存のカードがあるならば、そのカードに缶バッジをつけてもらえたら、すぐにでも設置可能である。
- ・SNSもよいが、新聞の発信力は根強いと感じる。新聞に水鳥情報などを定期的に掲載できないものか。
- ・水鳥プロジェクトとの連携商品ができれば、販売に協力させてもらいたい。
- ・事業者への働きかけなど、取組への賛同者を増やす取組は非常に重要である。
- ・トキやコウノトリは通年で観察できるので、観察小屋の設置という発想も必要である。

### (3) 地域振興に関連した活動

#### ◇生きものカードの活用

- ・ワーキングの意見を踏まえ、既存のカード（（公財）日本生態系協会が製作）をベースとした、水鳥プロジェクトの生きものカードを作成した。
- ・生きものカードには、水鳥プロジェクトのシンボルマークと、WEBサイトに誘導するQRコードを記載した。



#### <道の駅湯の川での設置>

- ・生きものカードにシンボルマーク缶バッジをつけて、2023年11月21日から道の駅湯の川の情報コーナーに設置した。2024年1月21日まで断続的に補充を行い、設置した713セット全てが来館者に持ち帰られた。
- ・2024年1月27日以降は、生きものカードのみの設置を行った。



カードに、クリップで缶バッジをつけて設置



缶バッジ付のカードと、チラシを設置



#### <その他各種イベント等での配布>

- ・ツアー等実施時、連携商品販売時に配布（後述）。

#### <圏域内店舗等での設置>

- ・出雲市・米子市・安来市他の店舗・施設等に、（公財）日本生態系協会オリジナル版を設置。

#### ◇連携商品の販売

- ・米粉パン製造業者「しふおんながた」（安来市）と連携し、昨年度の中海モニターツアーで好評を得たツアーオリジナルの「ハクチョウ形米粉パン」を、道の駅あらエッサ（安来市）にて期間限定で販売した。
- ・今年度は試験的に1月の土日みの販売とし、1日16個、計128個の販売を予定。希望者が持ち帰ることができるよう、パンの傍に「生きものカード」と缶バッジを設置した。
- ・新聞掲載の効果もあり、道の駅からの追加納品要請を受けて最終的には計338個を売り上げた。
- ・道の駅からは、商品固定化の提案もあった。



パッケージには水鳥プロジェクトのシンボルマーク



#### 掲載記事

・日本海新聞20240113

「ハクチョウ形米粉パン販売 道の駅あらエッサ 1月の土日限定」

#### ◇事業者への働きかけ

##### <大社ロータリークラブでの卓話>

日時：2023年11月1日（水） 12：30～13：00

場所：出雲商工会

内容：斐伊川水系生態系ネットワークの取組と地域の皆様との連携について

##### <株出雲村田製作所への訪問>

日時：2023年8月17日（木）12：30～13：00

2024年5月13日（月）11：00～12：00

場所：株出雲村田製作所

内容：・水鳥プロジェクトの紹介・出雲村田製作所の取組状況  
・今後の連携等について

（株）出雲村田製作所は、島根島津（株）、（株）島根富士通と共に、若手社員による「3社共同SDGs環境グループ」を結成。2023年6月に、活動の1つとして出雲市のトキの野外放鳥に協力する計画があることを発表。

## ◇各種イベントでの普及啓発活動

### <放水路記念館まつり（土木の日イベント）への出展>

日時：2023年11月11日（土）9:30～13:30

場所：斐伊川放水路記念事業館

出展内容：水鳥クイズ

クイズ参加者数：21世帯・43名

- ・水鳥プロジェクトと、大型水鳥5種群のパネルを展示した。
- ・クイズの答えは展示の中から探してもらう形式とし、全問正解者にはオリジナル水鳥缶バッジを進呈した。
- ・コウノトリとトキの巣の実物大マットを設置した。



オリジナル水鳥缶バッジ



クイズの答えは展示の中に。親子で一緒に答えを探します。



ほぼ実物大のコウノトリとトキの巣のマットを設置。



### <ツアー「奥出雲の田んぼで生きもの観察と木次線乗車」での説明>

日時：2024年5月26日（日）9:00～13:00

場所：石原里田集会所付近の田んぼ

内容：田んぼとビオトープの生きもの調査  
コウノトリの人工巣塔の見学

※奥出雲町公式観光ガイドHPの案内ページに、  
農事組合法人石原里田から水鳥プロジェクトへの応援メッセージの  
掲載あり。



## ◇その他普及啓発活動

- ・2024年1月～2月に（一社）出雲観光協会の職員が水鳥プロジェクト缶バッジを着用。

## ◇斐伊川河口ツアーの催行

- 基本プランは短時間の現地集合型ツアー
- 開催時期は河口近くでのマガン観察が期待できる12月に2回、1月と2月に各1回の計4回を企画
- 催行した3回は、ガイドを含め出雲観光協会単独で運営

イベント名	雁(かり)が音(ね)を聴くツアー
日時	[第1回] 2023年12月 9日(土)15:45～ [第2回] 2023年12月16日(土)15:45～ [第3回] 2024年 1月20日(土)15:45～ [第4回] 2024年 2月 3日(土)15:45～
集合場所	道の駅 湯の川 (出雲市)
参加人数	[第1回] 4名 [第2回] 0名 [第3回] 5名 [第4回] 6名
参加費(税込)	観察プラン 大人1,000円 小学生以下500円 【オプション】 夕食付プラン 大人3,300円 小学生以下2,800円 ※場所：出雲空港ホテル カフェ立ち寄りプラン 大人1,500円 小学生以下1,000円 ※場所：湯の川カフェななほし
主催	(一社) 出雲観光協会
協力	斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥と共に生きる地域づくり協議会・(公財)日本生態系協会
ツアー内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅湯の川で受付後、参加者が各自の自家用車で斐伊川河口部へ移動</li> <li>ガイドの案内のもと河口域の野鳥を観察。その後、宍道湖湖心へ飛ぶマガンのねぐら入りを観察。</li> <li>参加者には有機米を使ったオーガニック菓子を進呈。</li> </ul>

## 今年度の取組

- 参加費の見直し  
ツアー運営の持続性を高めるため、基本プランを200円増額
- オプションプランの見直し  
「夕食・温泉付プラン」を「夕食プラン」に変更  
新たに「カフェ立ち寄りプラン」を設定
- 参加者には、お土産として島根県産の有機米を使ったオーガニック菓子と、缶バッジ、生きものカード(マガン)を進呈

### 湯の川カフェななほし (出雲市)



集合場所である道の駅湯の川から車で約3分の場所にあるカフェ。  
ツアー限定メニューとして「水鳥ラテアートコーヒー」を提供。

### お土産① 発酵菓子カヌカ(雲南市) 「塩麹クッキー」

雲南市にある、オーガニック×発酵をテーマにした焼き菓子屋。定番の塩麹クッキーをお土産として活用。



### お土産② 生きものカード 缶バッジ



### [参加者の感想]

- 野生の鳥が大群をなし鳴きながら戻る様は大変迫力があつた。鳥根は宍道湖のめぐみ大きいことも伝わる。(松江市)
- ガン、カモ、ハクチョウが群れて飛んでいるのを眺める経験が初めてで、鳴き声や羽ばたきを実際に見聞きできて楽しかった。観光で来ると、どのあたりにガンがいるかなど情報がないので今回のツアーは特に貴重な体験だった。(東京都)
- 一見の価値あり。ガンについての情報を知れて良かった。(出雲市)
- 斐川町名物だと思う。多くの人に知ってほしい。(出雲市)

## ◇中海エリア 地域住民向け普及啓発

- ・ハクチョウのねぐら入りを地元の人に知ってもらう企画を検討。
- ・地元事業者である(有)矢田醤油店に、「安来まちゼミ」(安来商工会議所主催)を活用した連携企画を提案、開催に至った。
- ・ミニレクチャーと、現地での観察のみのシンプルな構成とした。

イベント名	安来まちゼミ 「知っているようで知らないハクチョウ講座」
日時	2024/1/30 17:15~18:30
集合場所	安来市 宇賀荘交流センター
参加人数	5名
参加費	300円(味噌汁材料代)
主催	(有)矢田醤油店
協力	斐伊川水系 水鳥プロジェクト
講座内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流センターでハクチョウについてのレクチャー。</li> <li>・徒歩で近隣のふゆみず田んぼに移動し、ハクチョウのねぐら入りを観察。</li> <li>・参加者には矢田醤油店の味噌でつくった味噌汁と、マコモ茶がふるまわれた。</li> </ul>



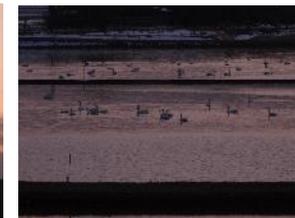
「安来まちゼミ」: 安来市内の事業者が講師となり、各種市民向け講座を開催。



参加者へのお土産  
生きものカード



缶バッジ



### [参加者の感想]

- ・羽の音や着水する音もよく聞こえた。
- ・地元の人にもっと知ってほしい。小中学校と一緒にやったら面白いのではないか。
- ・こんなに近くで観察できることを知らない人がたくさんいると思う。多くの人に知ってほしい。

### [主催者の感想]

- ・知っていても、ねぐら入りの光景はとても感動した。来年もぜひ開催したい。

## 今後の方向性

### 大型水鳥類を活用した観光振興

- ・斐伊川河口ツアー: 持続的なツアー運営を可能にするため、広報戦略の検討を進める。
- ・中海ツアー: 「安来まちゼミ」を活用した地元での普及啓発活動の定着と、地元ガイド育成支援について検討を進めるとともに、観光客を対象としたツアー商品化の検討を引き続き進める。

### 水鳥プロジェクトの認知度向上に向けて

- ・「生きものカード」の活用方法および、水鳥プロジェクト連携商品(後述の商品開発を含む)の販売サポート等の検討を進める。

## 2. コウノトリ・トキをシンボルとした地域づくりの取組

(出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会)

豊かな自然環境や活動の情報発信

### 「ヒツジグサ観察会」

2023年7月30日開催



### 「田んぼで生きもの探し」

2023年11月3日開催（雲南市）



ヒツジグサ



イヌタヌキモ

2023年11月5日開催（出雲市）



### 3. トキをシンボルとした地域づくりの取組（出雲市）

斐伊川水系 生態系ネットワークによる  
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会



## 出雲市トキによるまちづくり

令和6年7月22日  
出雲市政策企画課プロジェクト推進室

# 令和5年度に実施した主な取組

## 01 市のイメージカラーにトキ色を指定



市の公共施設や印刷物ポップ等に活用



## 02 シンポジウムの開催



シンポジウムは全編ケーブルテレビで放送



## 03 ステークホルダー(賛同者)の拡大



出雲村田製作所・島根島津・島根富士通  
3社共同事業と連携

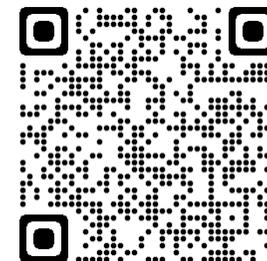


ワルツ商事による新車のゴミ  
収集車へのラッピング

## 04 ふるさと納税型クラファンの実施

『絶滅したトキが飛び交うまちへ  
環境にやさしいまちへチャレンジ!』

- 目標金額 3,000,000円
- 実施期間 令和6年12月31日まで
- 寄附金額 3,000円以上
- 返礼品 トキのオリジナル絵本
- 掲載紙 日経新聞、新潟日報、神戸新聞、  
東奥新聞、中国新聞、日本海新聞



## 令和5年度に実施した主な取組

### 05

#### アドバイザー設置・協議会の充実

##### ■出雲市トキ野生復帰アドバイザー

- ①（公財）日本生態系協会  
専務理事 関 健志
- ②（公財）日本鳥類保護連盟  
代表理事 小宮輝之
- ③（公財）山階鳥類研究所  
客員研究員 蘇 雲山
- ④新潟大学農学部農学科  
教授 関島恒夫

##### ■出雲市トキによるまちづくり推進協議会

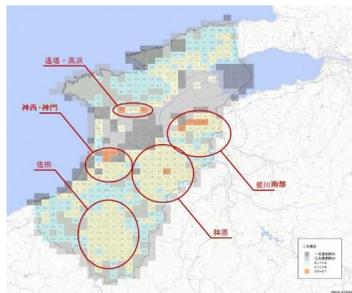
- ①国土交通省出雲河川事務所  
所長 小谷哲也
- ②島根大学  
非常勤講師 佐藤仁志
- ③島根県立三瓶自然館学芸課  
課長代理 星野由美子
- ④放鳥適地の自治協会長 等

### 07

#### 生息適地候補調査の実施

令和4年度に地形、植生等の環境基礎資料を基に、トキの生息に好適な採餌環境、営巣環境等の潜在性の高い5エリアを選定。

令和5年度にはその5エリアの現地調査を行い、適性をより正確に把握するとともに、無作為抽出によるアンケート調査を実施。



### 06

#### 放鳥適地における生き物調査

- ・放鳥適地に選定している稗原町（野尻地区）において、生き物調査を実施。
- ・地元説明会を開催し、市の取組状況や生き物調査の結果を報告。
- ・この生き物調査の結果を踏まえ、埋まってしまった土水路の掘り起こし等を実施していただき、令和6年度に同じ場所で生き物の量の変化を検証。



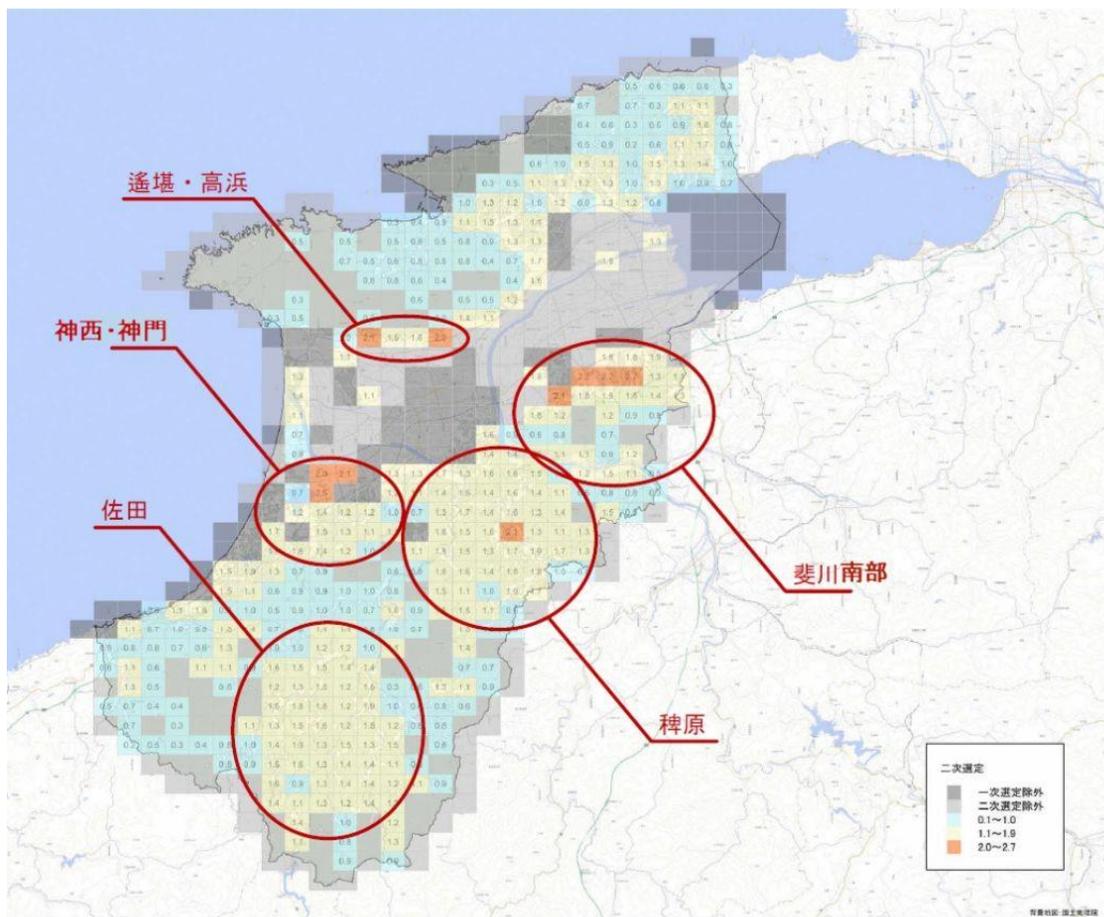
### 08

#### 環境にやさしい農業研究会を設置

- (1) 普及できる有機等の栽培モデルの検討
  - 有機JAS基準による水稲の実証試験
  - 先進事例調査
- (2) トキの生息環境に資する水田管理の検討
  - 雨水田んぼ
  - 早期湛水
  - 江の設置
- (3) 栽培に見合う販売戦略の検討
- (4) 農業者への理解醸成



## 餌場やねぐらの生息環境整備



## 令和5年度調査

- ①森林の実態調査（大径木の有無、餌場との距離、森林の荒廃状況等の目視確認）
- ②餌場の観察調査（水路形態（土水路・コンクリート水路等の構造、取排水様式等））
- ③農業者への意識調査（ヒアリング）
- ④無作為抽出によるアンケート調査

【対象者数】 無作為抽出1,000人+ネット

【実施期間】 R5.12.20~R6.1.31

【回答者数】 424人

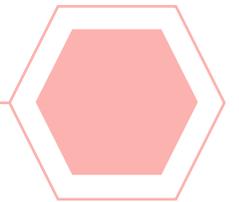
【調査結果】

- ・トキをシンボルとした環境にやさしいまちづくりの認知度  
知っている 70.3% 知らない 29.0%
- ・トキの野生復帰に向けた取組の賛同者  
賛成・どちらかと言えば賛成 73.6%  
どちらでもない 21.7%  
反対・どちらかと言えば反対 2.6%

# 出雲市トキによるまちづくり構想 アクションプラン2025

## 放鳥目標年度

令和9年度(2027)放鳥を目指す



## 計画期間

令和5年度～令和7年度 短期実施計画  
令和8年度～令和12年度 中長期構想



# 令和7年度（2025）までに重点的に取り組む事項（アクションプラン2025）

## 普及啓発・機運醸成

### 普及啓発の強化・価値観の共有化

- 01 市のイメージカラー「トキ色」の活用・ライトアップ  
シンポジウム・説明会の開催  
トキファンクラブの設置  
クラウドファンディングの実施  
様々な媒体を活用した情報発信  
（SNS・デジタルプロモーション・ケーブルテレビ等）

### 若年層に向けた情報発信

- 02 オリジナル絵本の作成  
子ども向けトキ学習講座  
小中学校における巡回企画展の実施

### 農業者・関係者の理解醸成

- 03 農業関係者との座談会・説明会の実施  
放鳥適地における説明会の実施

## 生息環境の整備

### 環境にやさしい農業の推進

- 01 環境にやさしい農業の普及に向けた調査・研究  
米の高付加価値化（認証米制度の導入）  
トキの餌場確保につながる水田管理体系の普及  
餌場環境の整備（ビオトープなど）

### 放鳥に係る体制づくり

- 02 広域連携体制の構築  
放鳥場所の検討・選定  
放鳥方法の検討など

## 地域活性化

### トキを出雲市の新たなブランドへ

- 01 トキ関連商品の開発  
観光プログラムの検討・試行  
企業によるトキ応援活動の募集

# 令和6年度の主な事業

## 普及啓発・機運醸成

### 普及啓発の強化・価値観の共有化

01

市のイメージカラー「トキ色」のライトアップ  
シンポジウムの開催  
トキファンクラブの設置  
クラウドファンディングの実施  
様々な媒体を活用した情報発信  
(SNS・デジタルプロモーション・ケーブルテレビ等)  
トキ公開施設及び学習コーナーの展示物の更新  
愛宕山公園へのトキ近似種公開施設の設置  
バックヤード体験ツアーの実施

### 若年層に向けた情報発信

02

オリジナル絵本の作成（3歳健診時に配付）  
子ども向けトキ学習講座  
啓発パネルの作成及び小学校での展示

### 農業者・関係者の理解醸成

03

農業関係者との座談会・説明会の実施

## 生息環境の整備

### 環境にやさしい農業の推進

01

環境にやさしい農業の普及に向けた調査・研究  
トキの餌場確保につながる水田管理の実証  
餌場環境の整備（ビオトープなど）

### 放鳥に係る体制づくり

02

各種協議会との連携強化  
トキと共生する里地ネットワーク協議会の出雲市開催  
餌資源量調査の実施  
広域連携体制（モニタリング等）の構築に向けた協議  
放鳥場所の検討

## 地域活性化

### トキを出雲市の新たなブランドへ

01

トキ関連商品の開発に向けたヒアリング  
観光プログラムの検討  
企業によるトキ応援活動の募集

## 4. コウノトリをシンボルとした地域づくりの取組（雲南市）



### 1. コウノトリの状況（令和5年度）

げんきくん（J0118）とポンスニ（J0051）が、市立西小学校の人工巣塔で造巢（市内で7年目、西小の巣塔で5年目）

月 日	内 容
3月9日	初卵推定
3月12日	本格抱卵開始
4月12日	ふ化（雲南市内7年連続）
5月26日	足環装着
6月1日	雌雄判明
6月15～20日	3羽の巣立ちを確認

#### 【愛称募集】

コウノトリは、色がついた足環（あしわ）により、個体の識別ができるため、雲南市では、市内で誕生したひなに愛称をつけています。3羽のうち2羽は人工巣塔がある西小学校児童に考えていただき、残りの1羽の愛称は市民の皆さんから募集しました。

6月21日、西小学校でコウノトリの愛称の提案が行われました。6年生児童が石飛市長と景山教育長にこれまでの取り組みや考えた愛称を選考理由とともに発表しました。市民の皆さんからは、51件の応募をいただきました。



### 2. 市の取組

#### （1）人工巣塔の増設

3月に人工巣塔2基を新設しました。市内3基目を木次町寺領の日登交流センター（写真左）へ、4基目を大東町大東の大東交流センターへ（右）。このうち大東交流センター巣塔で新たなペアが営巣しました。



#### （2）コウノトリビジョンとアクションプラン

“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン（令和元年度～10年度）の見直しを行い、後期アクションプラン（令和6年度～10年度）を策定しました。庁内のプロジェクトチームを中心に、コウノトリと共生するまちづくりを推進します。

### 3. コウノトリの状況（令和6年度）

げんきくんとポンスニが、西小学校の巣塔で造巢（市内で8年目、西小の巣塔で6年目）

月 日	内 容
3月3日	初卵推定
3月5日	本格抱卵開始
4月7日	ふ化推定（市内8年連続）
5月20日	足環装着
6月15～20日	3羽すべての巣立ちを確認



J0284（2020年・兵庫県生まれのオス）とJ0353（2021年・鳥取県生まれのメス）が、大東交流センター巣塔で造巢（市内2組目）

月 日	内 容
3月29日	初卵推定
3月30日	本格抱卵開始
4月29日	ふ化推定
6月10日	足環装着
7月2～5日	3羽すべての巣立ちを確認

西小巣塔で3羽、新設した大東交流センター巣塔で3羽の計6羽のヒナが誕生。いずれも各巣塔から巣立ちました。

## 5. サントリー世界愛鳥基金を活用した活動

- ・(公財)日本生態系協会がサントリー世界愛鳥基金を活用して取組んでいる「コウノトリ定着・広域ネットワーク推進プロジェクト」の中で、普及啓発を目的として、斐伊川水系水鳥プロジェクトの趣旨に賛同する圏域の事業者と、水鳥プロジェクトにちなんだ商品開発を行った。

### 協力事業者：発酵菓子カヌカ（雲南市）



- ・オーガニック素材の発酵菓子を扱う焼き菓子屋。
- ・コウノトリをモチーフとした商品開発を相談。
- ・基金からクッキー型のデザイン料・製作費を補助。
- ・事業者から、コウノトリクッキー専用の新レシピ考案の申し出があり、島根県産有機米を使用した米粉クッキーとして発売することが決定。
- ・コウノトリクッキー型のデザインおよび製作は、島根県内のNPO法人「くらしアトリエ」に依頼。
- ・2024年7月14日から、1袋（2枚250円）で発酵菓子カヌカ店舗等で販売開始。
- ・パッケージ裏面に、「斐伊川水系水鳥プロジェクト」への応援メッセージが記載される予定。



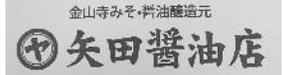
コウノトリクッキー型2種類  
(写真提供：NPO法人くらしアトリエ)



コウノトリ米粉クッキー  
(写真提供：発酵菓子カヌカ)

掲載予定メディア  
・山陰中央新報

### 協力事業者：(有)矢田醤油店（安来市）



- ・創業100年の老舗醤油店。
- ・大型水鳥5種をモチーフとした商品開発を相談。
- ・基金からオリジナルTシャツデザイン料を補助。
- ・2024年5月13日から、矢田醤油店店舗にて販売中。
- ・売上の一部は、斐伊川水系の活動団体に寄付の予定。
- ・矢田醤油店のX、Instagramで情報を拡散。
- ・事業者のアイデアで、Tシャツ購入者には「生きものカード」（マガン、トキなど）と、エコネット情報を記載した資料を同封し、取組の情報発信にも貢献いただいている。



完成したTシャツ



表面デザイン



裏面デザイン

#### 掲載メディア

- ・やすぎどじょっこテレビ20240514放送
- ・山陰中央新報20240522
- ・日本海新聞20240524
- ・毎日新聞20240611